SDGs新聞	旭化成ホームズ株式会社
地震のあと、あなたの家はだいじょうぶ？	

SDGsラジオを読んでみよう！

日本は、地震や大雨などの災害が多い国だということを知っていますか？
だからこそ、もしものときに備えて、ふだんから考えておくことがとても大切です。
そこで、住まいづくりの会社「旭化成ホームズ」では、災害に備えた家づくりや、くらしを守るための取り組みを行っています。
1つ目は、災害に備えた、強くて丈夫な建物をつくることです。
2つ目は、家具がたおれにくい置き方を考えたり、非常用の電気が使えるようにするなど、被害をできるだけ小さくする工夫です。
3つ目は、こわれた家を早く点検・修理したり、相談できる体制を整えたりして、ふだんのくらしに早くもどれるようにすることです。
もしものときに備えて、今できることを。
みなさんにも、すぐにできる工夫があります。
どんなことができそうか、家や教室を見回して、考えてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：災害に強い家のイメージ

日本は、世界の中でも特に地震や大雨などの災害が多い国です。そのため、災害が起きたときに備えて、日ごろからしっかりと準備や工夫をして、被害をできるだけ小さくすることが大切です。たとえば、建物を強くするだけでなく、家具がたおれないように固定したり、にげやすい通り道を考えたりすることも防災のひとつです。さらに、停電や断水のときにはどうやって生活するかを考えておくことも必要です。防災は決して特別なことではありません。毎日のくらしの中で、少しずつ取り組んでいくことが大切です。

画像参照：災害発生後、専門のチームがいち早く対応しているようす
（旭化成ホームズ「ヘーベルハウス」公式HPより）

こうした考えのもとでさまざまな取り組みを行っているのが、住まいづくりの会社「旭化成ホームズ」です。旭化成ホームズは、数ある取り組みの中でも特に災害に強い建物づくりに力を入れていて、たとえば、建物に「耐震技術」を取り入れて、こわれにくい家をつくっています。また、机やたんすなどの家具がたおれにくい置き方を考えたり、電気をためておける「蓄電池」を使って停電のときでも電気が使えるようにしたりするなどの工夫も取り入れています。さらに、建物が被害を受けたときには、すぐに点検や修理ができる体制や、相談できるしくみを整え、いち早くもとのくらしに戻れるようサポートしています。災害に備え、くらしを守るためには、建物を強くするだけでなく、災害の後の生活まで見すえることが大切です。このような取り組みが広がることで、安心してくらせる社会は少しずつきずかれていきます。

キーワード

断水

水道が止まってしまい、水が使えなくなることです。

耐震技術

地震のゆれに強く、建物がこわれにくいようにする技術のことです。

蓄電池

電気をためておくことができる装置のことです。停電のときでも電気を使うことができ、あかりをつけたり、テレビや冷蔵庫などを動かしたりしてくらしを支えます。

対象ゴール

みなさんにできること！

家や教室で、机やたんすなどの位置を見直してみましょう。

おさらい

- 日本は世界の中でも、地震や大雨などの災害がとても多い国。
- 災害に備えて、日ごろから準備や工夫をしておくことが大切。
- 「旭化成ホームズ」は、災害に強い建物づくりやくらしを守る工夫、災害後のサポートなどのいろいろな取り組みを行っている。

メモ

SDGs ラジオ